

事業所名

児童発達支援センターヒツジ

支援プログラム

作成日

2025年

3月

27日

法人（事業所）理念		「受容的交流」に基づいた援助を実践し、お子さんの成長に寄り添います。						
支援方針		児童発達支援センターヒツジでは、きめ細かい配慮を行うため、少人数グループで活動しています。また、発達課題の5領域からお子さんに合わせた個別支援を作成し、学ぶ機会も提供しています。楽しめること・興味があることを模索しながら課題を設定し、「できた！！」を共に感じる課題を工夫して提供します。						
営業時間		9時	30分から	15時	30分まで	送迎実施の有無	あり	なし
支 援 内 容								
本人支援	健康・生活	健康状態の観察、維持や改善・ライフスキルの習得、睡眠・食事・排泄リズムの形成、楽しい食事支援（バランスのとれた食事・アレルギー対応食の提供・咀嚼・嚥下・姿勢の保持等）が提供できるよう配慮します。						
	運動・感覚	運動機能・様々な身体感覚・身体の使い方や動き等運動機能や感覚の成長をサポートします。心と体、気持ちのコントロールにも役立ちます。歩行やサーキット、手遊び等状況を工夫しながら活動を設定しています。						
	認知・行動	臨床心理士・公認心理師による個別療育を行い理解力や学習力を伸ばしていけるようサポートします。集団活動の中では、自己調整力を養い支え落ち着いて活動できるように「たのしかった・できた・やってよかった」とお子さんの自己肯定感を育みます。						
	言語コミュニケーション	人との関わりを大切に、信頼関係を育みます。また、言語聴覚士による個別療育を実施し、ことばや要求表現等コミュニケーションの方法を指導します。言語聴覚士がアドバイスし、お子さんが集団生活に必要な自己表現を行えるように、ひとりひとりに合った方法で支援します。						
	人間関係社会性	生活の中でルールやマナーを知る、学ぶ。また、相手からの提案を受け入れられる（指示を受け入れる）ソーシャルスキルを体験するための支援を行います。お子さんが柔軟に対応できるよう体験を重ね対処できる力を育みます。						
家族支援		多様化した家族の状況やニーズを把握し、きめ細かい対応に努める。また、子どもの発達を進めていくうえで、家庭状況に応じた必要なサービスを安心して受けられるよう、関係機関との連携を図る。			移行支援	保育所等と事業所間でのきめ細かい引継ぎや情報提供で協力関係を築くとともに、就学を控えたお子さんには、学校や行政、その他教育機関等関係機関との情報を共有し、スムーズな移行を目指します。		
地域支援・地域連携		お子さんの利用する相談支援事業所や障害福祉サービス事業所等、関係機関と生活支援や発達支援に関わる情報共有を行い、連携を図る。			職員の質の向上	幅広い研修ニーズに応え人材育成を行っていけるように、新しい職員向けの基礎的な研修、専門性を高める研修、各階層や職種に合わせた研修を企画、実施し、職員のスキルの向上に努める。		
主な行事等		【5月】鯉のぼり、【6月】さつま芋の苗植え、内科検診、【8月】夕涼み会（親子行事）、水遊び、【10月】親子レクリエーション、個別面談、【11月】芋ほり、遠足【12月】クリスマス会、内科検診、【1月】餅つき、【2月】個別面談、【3月】巣立ちを祝う会（年長児）						